

第 41 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	小山ゼミⅡ	チーム名	R & B
タイトル	外資系企業で働きませんか！		
テーマ群	e) 産業・企業		
メンバー	西川 浩生、 田中 勝也、 坪井 綾吾、 藤野 亮平		
研究計画内容	<p>日系企業と外資系企業、どこがどう違うのだろうか・・・。</p> <p>【1】まず初めに、甲南大学生がどこの企業の内定をとったのかを調べる。ここではキャリアセンターからデータを頂き、より詳しくするために研究する。(1)OB・OGの多い企業ランキングを調べ、その中に日系・外資系企業がどれほどあるのかを調べる。さらにその企業の規模や年収・売上高なども調べる(2)次に2008年度と2010年度の内定先を調べる。これはあくまで内定先企業をキャリアセンターに届け出た者のデータである。どういった業界が多いのかも同時に調べ、ランキング化する。そのなかで日系と外資系企業の数を調べる。2008年度と2010年度を分けたのは、2008年9月におきたリーマンショック以降、就職状況がどのように変化しているのかも調べるためである。これで甲南大学生が日系・外資系どちらの内定を多くとったかのデータがでる。</p> <p>【2】次に就職情報サイト(リクナビ・マイナビ等)のデータを基に調査する。全国の学生が、どういった業界に登録(プレエントリー)しているのか(興味を持っているのか)を調べる。そのなかで、業界別に分けた時、日系・外資系どちらの企業がどれほど多いのかを調べる。そうして、人気度と実際の内定状況とを比較することが出来る。</p> <p>【3】なぜ、【2】のように学生の志向は片方に傾いているのか、それを考えていく。ここでは日系と外資系企業の年収・福利厚生・勤続年数・社風・新卒採用数・中途採用数・社員の性格・昇格システム・長所や短所などについて、外部のサイトや本(外資系企業総覧)を利用して調べていく。どこがどう違うのか、どういう性格の人にはどちらがむいているのか等も調べる。</p> <p>このように、日本にはいくつもの外資系企業が存在する。しかし多くの学生は先入観で企業を選択してしまっているのではないだろうか?!外資系企業というのを視野に入れると、学生の就職率はもっと良くなるだろう。</p>		